

大使館からのお知らせ

【生活情報】 当地新聞より“チクングニア熱”に関する情報をお届けいたします。

“チクングニア熱”は、チクングニアウイルスによる感染症で、ネッタイシマカやヒトスジシマカなどの蚊に刺されることで感染します。主な症状は、発熱、関節痛、発疹などで、関節痛は数週間から数ヶ月にわたって続く場合があります。アジア、アフリカおよび中南米の熱帯・亜熱帯地域で発生しており、ワクチンや予防薬はないため、蚊にさされないように注意が必要です。

ラ・ナシオン紙（7月5日付8面）

「コスタリカ初のチクングニア熱患者はフランス人観光客」（Angela Avalos 記者）

4日、厚生省は、コスタリカで初めて感染が確認されたチクングニア熱患者は、フランス人女性の観光客だと発表した。

このフランス人女性は母親とともに5月10日にコスタリカに入国し、サンホセ、トルトゥゲーロ、ラフォルトゥーナ、モンテベルデ、ケポスを訪れ、同月21日にフランスに向けて出国した。その6日後に症状が出始めたと思われる。

フランス国立ウイルス学研究所から、PCR検査の結果チクングニア熱と特定できたと、厚生省に電話があったという。

これを受けてアンチア厚生次官は、「このケースは、コスタリカ人の感染ではなく、外国からの旅行者の感染であるが、国内で感染した疑いが強い。しかし、当国への入国の際に既に感染していた可能性があることも否定できない。」と発言した。

トレホス同省厚生監視課長は、このフランス人女性は、コスタリカを来訪するまでに感染危険国を訪れておらず、コスタリカで感染した可能性がかなり高いとした。同課長は、現在4名がチクングニア熱に感染している可能性があるとした。この4名は、全員がドミニカ共和国で感染したと見られている。

コスタリカで初めてチクングニア熱患者が出たことを受けて、厚生省はさらに同病の監視システムを強化する。現在も病院に対し、同病発見のための研修を実施したり、厚生省の各地方事務所が監視を強化したり、媒体になる蚊の殺虫作業を行ったりしている。

ビジャルタ国立社会保険庁医務部長は、「流行しても対応できるよう準備はできているが、現在はその予防策に力を入れている」と発言した。

以上

◆ 大使館では皆さまからの情報提供をお待ちしています。◆

TEL: (506) 2232-1255 FAX: (506) 2231-3140

E-mail: japon-consulado@sj.mofa.go.jp (大使館領事班)

または eriko.nishida@mofa.go.jp (西田) まで